



学校だより

平成 26 (2014) 年 5 月 10 日

カンタベリー日本語補習校

校長 古川 明

《 祝 第 17 回入学式・・・ご入学おめでとうございます！ 》

澄み渡る青空と常緑樹の木立。丁寧に刈り込まれた芝生。ニュージーランド、クライストチャーチの街は、いつも美しい姿を見せています。カンタベリー日本語補習校のあるアイラムの木立は、日射しの強い時、子どもたちに木陰を与えてくれます。その木立も黄色や赤色に染め、地面には枯れ葉として積み重なっています。秋の深まりを感じる季節となりました。



5月3日(土)、午後1時よりホールでカンタベリー日本語補習校の入学式が行われました。小学部1年生31名、中学部1年生12名の合計43名の子どもたちが、入学式に臨みました。



小学部1年生の子どもたちは、補習校生活をする集団でのルールやマナーを学ぶ場でもあります。①人の話をしっかり聞ける子 ②あいさつや返事がしっかりできる子 ③外で元気に遊ぶ子 を大切にして指導を重ねていきます。

中学部1年生の子どもたちは、学習内容が少し難しくなりますが、日本語力を高め、日本の文化・伝統にも積極的にふれ、友達とともに学び合う喜びをたくさん味わい、補習校での3年間の生活を充実させていきましょう。



子どもたちが美しい日本語を身につけながら、日本の豊かな文化を学ぶことは、自らのアイデンティティーの形成に向け、国際人としてより良く成長することができるものと思います。

本年度も、本校の教育活動にご支援ご協力をお願いいたします。

《 平成26年度 補習校教育の基本方針について 》

学校教育目標と重点目標は、次の通りです。

【学校教育目標】・・・「学び合う喜び、高め合う喜びを身につけた、心豊かな児童・生徒の育成」

【重点目標】・・・①教科書を基にしながら基礎・基本的な知識、技能の習得と学習方法の習得・活用を推進します。

②学級経営を充実させ望ましい学級集団づくりを実践します。

③児童・生徒会活動や補習校行事で日本の学校文化を体験させ、目的意識をもった思いやりのある子どもを育てます。

文部科学省によって認可された補習校は、「海外に数年間在留して現地校や国際学校などに通学する日本人の子どもに対し、土曜日や放課後などを利用して、再び日本に帰国し国内の学校に編入した際にスムーズに適応できるよう、日本国内の小学校又は中学校の一部の教科について、基礎基本を習得するための授業を国内で使用する教科書を用いて、日本語により行うとともに、日本の学校の学習習慣、生活習慣などを指導し、併せて日本の学校文化を体験させることを目的とする教育施設」と明記しています。そして、認可された本補習校は、日本の政府から現地採用講師謝金やアイラム校の校舎借料、各教科の教科書、学習指導用指導書・指導用教材等で、多額の財政支援をいただいております。

そのため、本補習校は日本の教育課程を尊重しながら「人格の完成」をめざし、「心の教育」を推進することが、教育目的になります。本補習校では、年間 39 週、週 4 時間の授業時間を活用して、子どもたち一人ひとりに国語、算数・数学、社会(小5～中3)の学習内容を習得・活用・探求できる力、つまり「生きる力」を身につけられるよう努めています。そのため、全ての教員は授業実践を重ね、校内授業研究会に参加しながら授業の工夫と改善を進めています。



今年度校内研究の研究主題は、「自ら考え、学び合う子どもをめざして～伝え合う力を育てる国語科の授業～」です。各学年で設定した「めざす児童・生徒像」と「めざす児童・生徒像にせまる手立て」を基にして、国語科教育の基本概念である「伝える力」「伝え合う力」を、子どもたち一人ひとりに身につけさせる授業を、実践を通して追究していきます。子どもたちの発達段階を考慮しながら、子どもたちの学びがより豊かなものになるよう、デジタル教材や小グループでの話し合い、発表を積極的に取り入れていきます。そのことを通して、子どもたちが自ら進んで学習に取り組み、互いに学び合いながら思考力、判断力、表現力を育てる授業実践を進めていきます。今年度は、研究主題にせまる授業研究を実践しながら、日本から専門の講師(神戸大学附属小学校；杉浦浩先生)を招聘して研究協議会を開き、授業実践の評価・反省を行い、今後の授業改善に役立てていきます。

ところで、本補習校に通う子どもたちは、平日は現地校に通ってニュージーランドの教育を受け、異文化の中で生活をしています。子どもたちの日本語を学ぶ教育環境は、主に本補習校の学習指導時間(年間 156 時間)と、家庭での学習に限られています。国語科教科書の学習内容を指導するには、日本国内指導時間数の半分にも満たない時間数で、「話す・聞く」「書く」「読む」「伝統的な言語文化、言葉の特徴やきまり、文字」の各領域を指導することになります。その結果、学習の進む速さは、通常でも 2 倍を超えることになります。そのため、「第二の担任は保護者であり、第二の教室は家庭」という言葉のように、子どもの教育は補習校と家庭の協力・連携を進めることで、教育効果は発揮されます。補習校の宿題は、毎週、課題として家庭で勉強することになります。宿題は、子どもたちが補習校で学習した内容の習得と、様々な学習資料を活用して、課題の探求・解決と表現力を育てることを目的にしております。小学部 1 年生から 4 年生までは、保護者の方が子どもに付き添いながら学習習慣の定着と学習支援をお願いします。小学部 5 年生以上は、子ども自らが宿題に取り組めるよう学習時間の計画作りに協力し、子どもが自力で宿題に取り組む環境を整えてあげてください。自力で宿題に取り組めない場合、教科書を基に子どもへの学習支援をお願いします。家庭教育では、学習内容の知識、技能の定着を図ることと、日本語を学ぶ目的意識について、継続して子どもと話し合いをして理解を深めていくことが大切です。このことは、子ども自身のアイデンティティ形成に役立ち、将来に夢と希望を抱き、国際人としての活躍が期待されることになります。

子どもたちの健やかな成長にとっては、保護者皆様と補習校が密接に連携を図ることが大切です。その趣旨にそって、来月、全員対象の担任との個別教育相談を実施いたします。保護者皆様のご協力をお願いいたします。

子どもたちがより良く日本語を習得、活用し、日本語で考え、判断、表現できる力を身につけ、心豊かな子どもたちとして成長できるよう、今後も指導に努めていきます。

《 緊急時の対応・・・家族内で確認しておくことが大切です！ 》

大きい地震等の緊急時には、担任から保護者へ児童・生徒の引き取りを直接電話で要請します。保護者が子どもを直接引き取れない場合に備えて、あらかじめ保護者は代理の方をお願いをしておいてもらいます。そして、代理人の身元については、保護者から引き取り場所にいる代理人と担任の二人に、電話で代理人に間違いのないことを確認してもらいます。補習校が外部との連絡がとれない等、被害が甚大な場合、子どもたちをアイラム校の施設や敷地に緊急避難として待機する場合があります。

なお、被害の大きさによっては、補習校より児童・生徒、保護者の安否確認をします。具体的には、①名前、学年、クラス、所在地、連絡先、状況 ②家屋等の被害状況確認 ③不在時の返信(○日の△時まで) ④不通時の再確認 です。災害の起きる時間、状況に応じて、あわてず、迅速、的確に対応できるよう、日頃から家族内で話し合いをして、自然災害に備えておきましょう。

お知らせ (5/24) 年次報告会

5 月 24 日の授業参観(1 校時)の後に、年次報告会(2 校時)があります。万障お繰り合わせのうえ、多数の保護者皆様にご出席をお願いします。